

市民との意見交換会会議録

報告日及び報告者 R02.02.12 齋藤雅彦
菊田広嗣

1. 日時 令和2年1月25日(土) 午後2時00分～午後3時30分
2. 場所 えぼか 中会議室
3. 出席議員 馬場亨守、菊田広嗣、齋藤雅彦、円谷長作、作田 博、
国分勝広(6名)
4. 出席市民 42名(氏名記入者)
5. 会議経過

【午後2時00分開会】

◇ 齋藤議員 開会挨拶

意見交換会は広報広聴委員会の主催により実施する。議会基本条例に基づいて、市民の意見を市制に反映させる機会の確保のために開催される。意見交換会で得た意見は、精査を行い議会における対応方針を定め、政策形成に生かしていく。

(出席議員自己紹介)

【意見交換】

2グループに分かれ、意見交換を行った。

<グループ1> 記録

(1) これからの地域のあり方・活性化について

①防災対策について

意見(市民)

自宅に戻れない方が200世帯を超えている。

総括として、行政と住民の取り組み方や考え方のマッチングが上手くいかなかった。

実は1時間に30mmを超える雨はなかった。それが危機感を薄れさせたのではないか。

前回の反省が生かされなかった。

もっと早く住民に危険を知らせるべきだった。消防のサイレンなどを利用し、重大性をアピールすべきだった。

社協のボランティアなどの体制を議員にも把握していただきたい。

道路の拡幅について、東西のアクセスが弱い。上町、矢来の踏み切りの拡幅をしてほしい。

意見（市民）

歴史上に本宮市は災害に苦勞してきた歴史があるが、今回に生かされなかったのではないか。

堤防かさ上げなどもやった甲斐がなかった。

本市は水害の町である。安心安全にすごせるまちづくりの為に抜本的な対策をお願いしたい。

安達太良川が阿武隈川に垂直にぶつかっているのが問題である。改善しなくてはならないと思う。

前例に囚われない抜本的な対策が必要。

ハザードマップの見直しや防災の勉強会をしてほしい。

白沢地区だけでなく、本宮市街地においても水害にあった方の安全な場所への定住政策を。

意見（市民）

災害についての検証をしてほしい。

生活再建が重要課題である。

「阿武隈川が越水しました」と放送があったが、越水という言葉が分かりづらい、他の方からも同じ意見が聞かれた。決壊や氾濫など分かりやすくしてほしい。

サイレンを何度もやってほしい。

河川国道事務所が出しているデータがあるが、大事な場面でデータがなくなった。二度とないように申し入れてほしい。

ホームページを見ると郡山は支援の内容などわかりやすい。本宮市は災害の情報がわかりづらい。

意見（市民）

意見交換会の時間が少ない。

商店街への対応はどうする。

災害の意見交換会を再度開いてほしい。

意見（市民）

みずきが丘に住んでいるがTV以外情報が入ってこない。

議員から国に申し出て河道掘削してほしい。

災害発生時刻が昼であったなら、児童が危険な状況になっていたと思う。台風時の児童のための避難マニュアルを作ってほしい。（台風情報があったら学校は休みにするなど。）

意見（市民）

河が浅い、洪水は人の力でコントロールできるというおごりがある。

砂利採取が出来ない。尚且つ放射能の影響でなかなか川底を浚えないのが問題であると思う。

遊水地がない。

また近い将来に同じ規模の災害が来ると思う。早期に土木関係をやっていただきたい。

車を逃がす場所やマニュアルを設定してほしい。

問（市民）

排水ポンプの水没による故障により、水害後の水の引きが遅かったのではないか。以前にも高木で同じようなことがあったが、なぜ二の舞になったのか。

答 國分議員

ポンプの電源が浸水した。高さを考えると浸水する恐れはあったが、県に認められなかったので（位置を）高くできなかった。

答 円谷議員

基本的な国・県の考え方は元にもどす現状復帰であり、変更は認められない。しかし今回の災害を受けて設備変更でも補助ができるように申請し、やっていたくような流れになっている。

意見（市民）

ポンプが壊れなければすぐに自宅に戻れる方もいたのではないかと思います。

意見（市民）

狭い地域でどのくらいの雨量だったかは関係ない、河川にどのくらい流れ込むかを考えなくてはならない。近々同じくらいの台風が来たときの対策を講じておかななくてはならない。

②子育て・学校教育について

意見（市民）

災害が繰り返されている昨今、子供たちのために、市全体でベルマークを集めていただきたい。そうすれば学校予算として、テントや電子黒板など子供の設備や教材に利用できる。

ベルマーク集めの政策を！

高齢世帯を見守りに利用、ベルマーク回収を名目にしたり他のものと合わせて人とのつながりを作るきっかけとできる。

答 菊田議員

ご意見として伺う。

意見（市民）

学校が終わると児童館に移って待機して帰宅する。変質者の話も聞いたりするので、わざわざ児童館にいかずに学校で待機できる仕組みが欲しい。

IT教育の設備充実について前回ただしたが、どうなったかの回答が返ってこない。答えを市民にフィードバックできるシステムを構築してほしい。

③地方議員のなり手不足について

意見（市民）

投票率が低い。有権者の選挙に対する認識がうすい。

無投票になるのは好ましくない。

議員はいい意味で競争、切磋琢磨してほしい。

意見（市民）

議員削減には反対の意見である。ただしこの意見は議員のなり手不足の解消法として議員報酬増額を推奨するものではない。

意見（市民）

議員定数の再検討をお願いしたい。

議員だけで定数を検討するのではなく有権者の中から諮問会議を作って、考えていただきたい。

議員同士は切磋琢磨し、きちっとした質問をできるようにしてほしい。

意見（市民）

定数削減には反対です。

議員報酬を下げて、定数を増やすほうがいいと考える。

今の大多数の会社も副業を推奨している。副業としての議員という方法はとれないか。

女性枠を何人とかいう形で女性枠の拡充を検討して欲しい。

意見（市民）

議員自身がもっと議員の魅力を発信すべきと考える。今のままでは議員の仕事が見えない。

意見（市民）

議員自身が後継者をつくるなどしては。

議員になるために一回仕事をやめてしまうと、議員を辞めてから復職が難しい。復職可能にしてなり手を育てるべき。

魅力ある職業として確立する義務が議員にはある。

定数については同じ人口規模・面積・税収の自治体を参考として決めるべきと思う。

市民との話し合いの場をもっと多く作って議員への関心を高めるべき。

(2) その他

意見 (市民)

災害対策特別委員会は何をするのか。いつまでやるのか、行程表を出してほしい。

議会だよりの中の採決結果のページで、反対・賛成が割れるような、話題となるような採決は、もっと詳しく載せてほしい。

みなさんの後ろには3万人の有権者がいることを意識して採決は是々非々で行ってほしい。

意見 (市民)

英国から子供たちを呼ぶ事業を、災害を理由に断れないのか。

意見 (市民)

補助金の姿勢が被災者によりそってない。国・県・商工会などの処理スピードが遅すぎる。議会を通して促していただきたい。

意見 (市民)

郡山市では災害時に被災地域以外の出身区の議員が四国の方に視察研修に行っていた。本宮市内では被災地域以外の議員においても20人の議員全員、同じ意識で災害対応に当たってほしい。

問 (市民)

市内の公共施設にWI-FIを設置してほしい。

答 斎藤議員

市内5箇所に設置している。

問 (市民)

台風19号被害の検証を行うべき。

答 斎藤議員

12月一般質問でもかなりの議員が検証の必要性を訴えている。検証は必要と考えている。

<グループ2> 記録

(1) これからの地域のあり方・活性化について

①防災対策について

問 (市民)

今回の水害において、市から早めの避難指示を出して頂いたことに、評価と感謝を申し上げたい。

阿武隈川や決壊した安達太良川の修復工事は計画通りに予算がついているのか。また安達太良川の河川工事により川幅が狭くなっているのでは。

答 作田議員

今回の水害の原因は安達太良川のJR線路わきの部分が決壊したもので、南側については阿武隈川の改修が行われているがまだ完成していなかった為越水してしまったことが原因である。現在国では速やかに工事に着手して来年度完成を予定している。安達太良川についてはバックウォーター現象により阿武隈川の水による予想外の水量が原因となった状況で、県の1級河川であるが、改修は国直轄でやって決壊箇所は終了して、上の箇所についても実施される。議員としても国へ陳情に行ってきた。県にも近々陳情にいて、速やかに築堤の要望活動を行う予定である。

問 (市民)

「越水」などという市民にわからない言葉は使わずに説明をして欲しい。防災無線でも安達太良川が決壊すると言えば簡単に分かったのに、町内の方で聞いたがほとんど分かっていなかった。

答 斎藤議員

ご意見ありがとうございました。

問 (市民)

今回の水害で防災センターが活用されていなかったのではないか。何の為に防災センターなのか、消防団の駐車場として使っているだけなのか今後改善してほしい。また二次災害を防ぐための交通整理も行われていなかった。

答 作田議員

いろんな状況において検証を行うように、市当局に話をしている。防災センターの機能については、確認して後日報告されて頂きたい。

問 (市民)

市のハザードマップでは、万世より西側は水が上がらないようになっているが、もっと大きな災害の場合、市役所のBCPの施策はどうなっているのか。

答 作田議員

BCP計画については東日本大震災以後、議会でも取り上げて市町村の約40%位が条例で制定されている。議会としても災害特別委員会を設置して6月定例議会での条例制定に向けてやっていきたい。

問 (市民)

大災害とかいろんな事を想定する必要があると考えるが。

答 作田議員

大分市が(BCPの)先進地で、郡山市からも資料を取り寄せ、本宮版を作るよう議会で検討していきたい。

答 斎藤議員

市のBCP(業務継続計画)も作成済みである。

問（市民）

防災訓練に障がい者（ろうあ者）も参加できるように、市で通訳の手配をお願いしたい。

答 齋藤議員

毎年の防災訓練に（ろうあ者の方にも）声掛けをして、手話通訳の手配をするように市に働きかける。

問（市民）

（ろうあ者の方向けに）字幕付きの防災ラジオを配布していただけると聞いていたが、いつ配布になるのか。

答 齋藤議員

市に確認して配布日がいつ頃になるか後日連絡させて頂く。他の皆さんには広報等でお知らせするように依頼する。

②子育て・教育について

問（市民）

インフルエンザやノロウイルスのような感染症対策の為、幼保園には専門技師（専門知識のある方）はいるのか。プリント等で保護者に注意のお知らせばかりではなく、保健師を定期的に派遣して予防策を講じて欲しい。

答 齋藤議員

現在、専門的な知識のある保健師さんが回っているといった情報がない。もし回っていない場合は、小学校のレベル位に予防のための指導をしていただけるような形を取るよう市に要望する。

問（市民）

現在、待機児童はどのくらいいるのか。

今保育所で感染性の胃腸炎が流行っていて、子供たちの親にも感染しているケースがあるが、市はどのような対応を取っているのか。

答 作田議員

4月の時点では待機児童はいないが、転勤等の異動が対応できるか問題になっている。現在の人数は把握していないので、後日お知らせする。

答 齋藤議員

10月の時点では30名位は毎年発生しているが、4月の時点では2年位はゼロになっている。郡山市のような大きい市に比べると対策が出来ている。

問（市民）

現在、待機児童はどのくらいいるのか。

今保育所で感染性の胃腸炎が流行っていて、子供たちの親にも感染しているケースがあるが、市はどのような対応を取っているのか。

答 作田議員

4月の時点では待機児童はいないが、転勤等の異動が対応できるか問題になっている。現在の人数は把握していないので、後日お知らせする。

答 斎藤議員

状況が把握できていないが、先ほどと同様に感染症の胃腸炎についても予防のための指導をしていただけるような形を取るよう市に要望する。

問 (市民)

小中学生の通学路で今後の西口開発で交通量が多くなると思うが、駅に向かう道路が狭くて歩道がない(場所がある)。歩道を作るとか一方通行にするような計画はないか。

答 作田議員

駅西口の交通安全対策の質問だが、知る限りでは計画はない。今後の問題として市へ話をする。

答 斎藤議員

一方通行などについても警察、学校や交通安全協会との話し合いの場があるので、市へ話をする。

問 (市民)

二年前に柘形に引越してきたが、小学校は五百川小学校で近いが、中学校が二中になりかなり遠いが一中の方が近い。青田と仁井田は二中に決まっているが、交通安全の観点から交通量の多い会津街道を自転車で通うよりは一中の方が安全では。子どもが将来交通事故に遭わないようにすべきで、(学校を)選択はできないか。

答 斎藤議員

交通安全の観点から、近い中学校に通えるような学区の見直しが出来ないかと言う要望として伺う。

問 (市民)

学校にいる外国人の英語教師としてALT 3人と国際交流員1名の計4名がいて、かなりの出費だと思うがその効果はでているのか。先生や生徒の意見などを聞いて確認をしては。

また、4名全員が英国人で、中学校の教科書は米国流のものを使用して単語や表現も違う。慣れていない英国人が米国の教科書を使うのはどうかと思う。英国との関係は理解できるがそれとこれとは別で考えるべき。

答 斎藤議員

- ・教育部の方に今後話をする。効果については数字では表しにくいとは思いますが、小学生の英語教育も始まっているので、ご理解願いたい。

③地方議員のなり手不足について

問（市民）

若い人でも議員になれるのか

答 斎藤議員

市議会議員の被選挙権は25歳以上、参議院議員は30歳以上になる。志のある方はぜひ立候補して議会で話をして頂きたい。

問（市民）

県内の状況はどうか。

答 作田議員

国見町、須賀川市で（市議会議員選挙は）無投票だった。この地区では市長選挙と県議会議員選挙が無投票だった。関心が少ないのが問題なのか、子育て世代については収入についても難しと思う。仕事をやりながら議員になる人も多く、農家の方が多いのも現実である。過去には国会議員が辞めた後収入がなく民生委員の世話になったと言う事例もあって、議員年金制度もあったが、地方議員も含めたすべての議員で数年前に廃止になり保障が無いという面もある。（対策として）議員報酬を上げて同じ結果の自治体もあった。定数の問題にしても人口の関係もあるが、議員の場合はこれといった決まりはない。本宮市の場合は人口割からすると定員減しないと、他自治体と肩を並べる事が出来ないという問題も抱えている状況である。

問（市民）

市議会に対する関心が薄いのが一番と思う。やっている内容がよくできない。議会傍聴の（ラジオ）放送をやっているが、日中なので若い働き手が傍聴にいけないのが現状。私も観に行きたいがなかなか行けないので、案として夕方か夜から議会が開始出来るのであれば、会社が終わってから傍聴にいけるし、議会の内容を聞きながら一步踏み込めるのではないか。議会はオープンにはなっているが、なんとなく閉ざされたイメージがある。夜やるのであれば仕事をやりながら若い方でも出来るし活性化になるのではないか。夜に議会を開催するのは可能か。

答 作田議員

夜間議会を全日程だけでなく一般質問だけ実施する議会はあるが、問題は質問に対して適正な答弁が必要なので、役所の職員も部長から課長まで置かなければならない。（夜間議会を）実施しても一時的には参加するが常時くるかどうか問題になる。現在実施しているなかでは若い人がくるという状況はなく、通常の審議を聞いても理解できないと思う。一番わかりやすのは一般質問で、通常三日間が行われるので、執行部と経費の問題もあるので今後協議したい。

答 齋藤議員

近隣市町村では三春町議会で実施されたが、その後参加者が少なくなり終了した経過がある。議会が（何をやっているのか）分からないと言うことだが議会だよりの発行や議会中継も支所、えぼかでも実施している。一般質問についても、FMモットコムで日中と夜間に録音放送している。

問（市民）

傍聴は何歳から聴きにいけるのか。小・中学生でも可能か。

ホームページで（議会中継の）動画は見れないが。

答 作田議員

年齢制限はなく、静かに聴いて頂ければどなたでも参加できる。

答 齋藤議員

議会のインターネット中継もあるが、費用や他の問題で実施していない。

（２）その他

問（市民）

災害時に停電した場合、防犯灯が消えてしまう。安全に避難するために太陽光で停電時につくような防犯灯の設置はできないか。太陽光式の街灯を設置すると100万から30万掛かると聞かすが。また街路灯が暗いので明るく出来ないか。

答 作田議員

市では街路灯のLED化を進めている。災害に対する検証において考える必要があると思うので市に話をする。

答 齋藤議員

街路灯が未設置のところもかなりあるので、地域からも要望してほしい。

問（市民）

重度心身障害者制度で病院によっては市からもらう申請書に金額をその都度書いて貰えないのは、市の都合なのか病院の都合なのか。障がい者でタクシーでしか病院に行けない。月1回の通院以外に、病院で申請書を書いて貰い市役所に書類を提出する為のタクシー代が毎月掛かっている。

答（市民）

病院では月末に締めてから翌月に診療報酬明細書を作成して、月でまとめて保険者に請求している為、病院側の都合になる。切手代を病院に出して郵送してもらうのも可能だと思う。

◇ 齋藤議員 閉会挨拶

いろいろなご意見を頂き感謝申し上げます。議会は執行機関では無いため、市長に伝えるものと議会で対応するものに分けて対応させて頂く。対応の方法については議会広報等でお知らせする。

アンケートの協力を依頼

【午後 3時30分閉会】

問（市民）

- ・手話言語条例制定に向けての検討委員会は怎么样了。
- ・字幕付き防災ラジオの配布はいつごろか。

◇ 齋藤議員

- ・後日、FAXで回答させて頂く。